

和歌山市立東和中学校

生徒指導だより

～君たちは未来から「今」を託されている～

No.10 2015.2.13



一月は行く 二月は逃げる 三月は去る

生徒のみなさん、飛ぶように過ぎてゆくこの時期の時の流れに巻き込まれもがいていませんか？ 2015年2月の半ばになりました。それぞれの学年の仕上げの時期です。3年生にとっては、義務教育の仕上げですね。あなたは、あなたを、どのようなあなたに仕上げて春を迎えますか？ あなたを動かしているのはあなたです。どんな自分になりたいのかを冷静に考え、その実現に向けて歩いて行きましょう。

そんな中、先生方や地域の方から、みなさんの日常の姿にかかわって、様々な声が届いています。今回は、そんな声を紹介します。

「ちゃんとあいさつしてくれる生徒が 多くなったように思うわ♪」

校舎内ですれ違うときなどに、以前ならそのまま通り過ぎたり、あいさつしても「ふ～ん(--)」みたいな反応が多かったけど、最近は、ちゃんとこちらに顔を向けて、あるいは、立ち止まってあいさつしてくれる生徒が増えたとのことです。相手と心を通わせている証（あかし）ですね。

「移動教室へ行くの 早くなったよね！」

2学期までは、チャイムが鳴っても移動教室へ向かわず、クラスの教室に残っている生徒がいました。先生方の「早く行けよー」というかけ声に押さ

れて移動していることが多かったように思います。3学期に入ると、チャイムが鳴ったときにはクラスの教室はもう空っぽで、すでに移動を済ませているようになりました。きっと授業がスムーズに始められていることでしょう。授業を大切に作る姿勢＝自分も仲間も大切に作る姿勢ができてきた証ですね。

「カラコン付けてる子が心配やなあ・・・」

学校におしゃれは必要ないとのことで、カラーコンタクトも禁止していますが、校則だからということに関係なく、付けている生徒の目が心配だということで、カラーコンタクトの危険性等についての記事をくれた方がいます。

以下の内容は、その抜粋ですので、一度読んでみてください。

若い女性に人気のカラーコンタクトレンズ（カラコン）による眼障害のトラブルが後を絶たない。多くは眼科医の処方を受けずにインターネットなどで購入、不適切な使用を続けたことで起きている。最悪の場合、失明する可能性もあるだけに・・・(中略)・・・角膜内皮細胞は再生しないため、細胞が死ぬと死んだ細胞の隣の細胞がその場所を埋めるようになり、一つ一つの細胞が大きくなっていく。角膜内皮細胞が少ないと白内障などの手術を受けるときにリスクが高くなるが、細胞の数が減っても痛みなどの自覚症状はない。・・・(中略)・・・角膜の防御機能低下で感染性の角膜炎や、より重篤な角膜潰瘍となるケースも多い。これらは角膜に微生物が感染し増殖している状態で、微生物の種類によっては失明にいたることもある。山口大学医学部眼科の植田喜一・臨床教授は「カラコンは承認レンズでもたくさん問題が起きている。また、どんなにいいレンズでも使用法が悪いと眼障害が起きやすくなる。眼科医の処方に基づき正しく使用してほしい」と話している。

「毛布みたいなのを巻いて通学してる子ら 何とかならんかなあ」

「あの子ら、小学生の頃からよお知ってるんよ。どの子もかわいらし笑顔であいさつ返してくれて、ええ子らやでえ。あの子ら最近、毛布みたいなのを巻いて登校してるけど、あのみっともないの何とかならんかなあ」

生徒のみなさん、知っておいてくださいね。地域の方々は、幼い頃からのみなさんをずっと見守ってくれてますよ。

